

数値地図25000（土地条件）の概要

自然条件に即した効果的な防災対策・土地利用計画・開発計画などに寄与することを目的に、土地に備わる自然条件の一つである地形分類のデータを整備、提供しています。

【概要】

国土地理院が持つデータと技術を用いて、地形を形態、成り立ち、性質などから分類したもので、土地が持つ災害リスクを地点ごとに示すことができます。現在、主な平野部などを対象に整備を進めています。



地形分類データ整備前

宅地開発や道路開通がなされ、どこでどのような災害リスクが高いかわからない。



空中写真判読



旧版地図



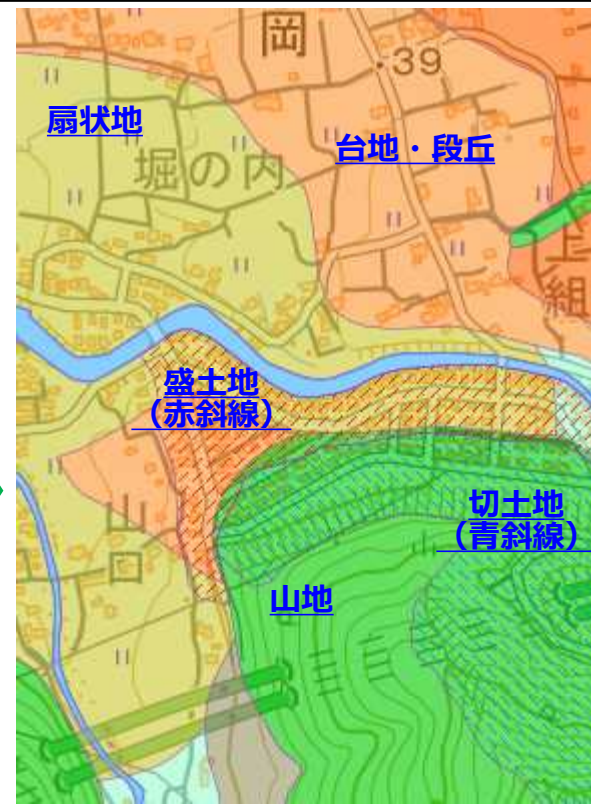
DEM（数値標高モデル）

扇状地

山麓の谷の出口から扇状に広がる緩やかな斜面。山地からの出水による浸水リスクがある。比較的地盤は良いため地震の際には揺れにくい。下流部では液状化のリスクがある。

台地・段丘

周囲より階段状に高くなった平坦な土地。河川氾濫のリスクはほとんどないが、縁辺部の斜面近くでは崖崩れに注意。地盤は良く、地震の揺れや液状化のリスクは小さい。



地形分類データ整備後

土地の災害リスクが面的に明らかになり、利用計画等の計画策定の一助に。